

「絵はがきと切手」

(参観のキーワード：友達と互いに理解し助け合う，心メーター)

— 学習すること (ねらい) —

主人公の揺れる気持ちを通して，友達と互いに理解し，助け合うことについて考えを深めます



— ねらいとする道徳的価値は —

友情
信頼

活動範囲が広がると，子供たちの関係も広がっていきます。気の合う友達と友情を深めていく一方，仲間を作って自分たちだけで楽しもうとしたり，押しの強い児童に引きずられたり，仲間外れをしたりとトラブルを引き起こすこともおきてくる時期でもあります。

日常生活では気まずい思いをする事もありますが，そんな時にこそ互いに相手の立場に立って考え，少しくらい嫌なことも乗り越えて，望ましい関係を築いていくことが求められます。互いに理解し合い，友達を大切にするととはどのようなことなのか，子供たちに考えてほしいと思っています。

— この授業で使う資料について — (出典：小学道徳4年「絵はがきと切手」 教育出版)

友達の正子から料金不足の絵はがきを受け取った主人公のひろ子は，正子のことを考え，どうしたらよいか迷います。母のアドバイスは「お礼だけ伝えればいいのかも (友達だから，相手を傷つけるよりはいいかもしれない)。」兄のアドバイスは「料金不足をちゃんと伝える (友達だから，間違っただけを教えた方がいい)。」でした。ひろ子は一人でじっくり考えて，(正子さんは，きっとわかってくれる。)と思い，返信の際に料金不足のことを書きたすことにしました。お礼だけで済ませた場合どんな事になるか，知らせた場合はどうなるかと，子供たちがいろいろな結果を考え，「自分がどうしたいのか。」だけでなく，相手の立場を考えて，「どうすることが本当の友達なのか。」などについて考えさせたいと思います。

友達の身になって考えることの大切さや，たとえ考えが違っていても，友達のためだと思えることをはっきり伝えることで，相手にもその思いが伝わり，信頼や友情がはぐくまれることを深く考えさせるようにしたいと考えています。

— 学習活動と主な発問 —

- 1 友達とはどんな人のことなのか考える。
 - あなたの友達は，どんなことをしてくれますか。
- 2 「絵はがきと切手」を読んで話し合う。
 - 正子にどう手紙を書くか迷った時，ひろ子はどんなことを考えていたのでしょうか。
 - お母さんとお兄さんは，考えにどのような違いがあるのでしょうか。また，自分がひろ子だったらどうすると思いますか。
 - ◎ ひろ子は料金不足のことをどうして手紙に書こうと決めたのか，考えましょう。
- 3 自分について振り返る
 - 自分の気持ちを伝えずに，そのままにしてしまったことはありますか。そのような時に，どうしたらよいかと思いますか。
- 4 教師の話をきく (終末)



— 子供たちのこんな姿を期待します —

相手がどう考えるかなどいろいろなことに思いを巡らせながらも，トラブルを乗り越えて信頼関係を築き，互いに助け合えるような友達関係について考えてほしいと願っています。

お話の中だけで完結せず，友達を大切にするととはどのようなことなのか，考える機会としてほしいです。